

## 国際統合海洋掘削計画(IODP)の Science Planning Committee(SPC)会議メンバーが仙台市周辺の津波被災地を巡検しました(2011/8/21)

8月21日(日)、国際統合海洋掘削計画(IODP, Integrated Ocean Drilling Program)の Science Planning Committee(SPC)会議メンバーが仙台を訪れ、当センターの菅原研究員の案内で、東北地方太平洋沖地震の津波被災地を巡検しました。統合国際深海掘削計画は、日本と米国が主導する地球環境変動、地球内部構造及び地殻内生物圏の解明を目的とした国際的な海洋科学掘削計画で、2003年10月に発足し、日本の地球深部探査船「ちきゅう」と米国が提供するジョイデス・レゾリューション号、欧州が提供する特定任務掘削船(MSP)の複数の掘削船により科学研究航海を実施しています。今回の巡検は、22~25日、宮城蔵王で開かれる同会議に先立ち、被災地の現状や貞観地震津波(869年)についての見識をメンバー間で深めるために実施されたものです。仙台市若林区荒浜での宅地被害や、映像により津波来襲時の状況が捉えられていた名取川河口部、仙台空港周辺の様を見学しました。また、これまでの調査で採取していた貞観津波の堆積物の標本を使って、過去の津波の痕跡がどのようなものであるかを確認しました。参加者からは、津波堆積物の判別方法や、貞観以前の堆積物が見つかるかなどについての質問が寄せられました。同計画に関するHPのURLはこちらです：<http://www.iodp.org/>



解説・説明にあたる菅原研究員(写真右)



採取された堆積物に関する質問を受ける菅原研究員(写真中央)



津波から1週間後(3月17日)の荒浜地区の様子



津波の翌日の名取川河口部(藤塚地区)の様子